編纂所だより

大阪市史編纂所（発行）
〒550-0014 大阪市西区北堀江 4-3-2

第 48 号

大阪市史料調査会（編集）
大阪市立中央図書館内　TEL06-6539-3333

●堺奉行の河川支配マニュアル

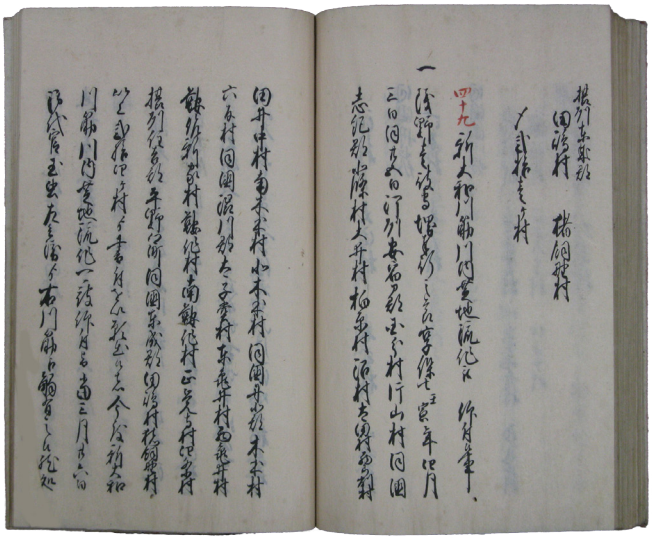
2016 年 9 月に刊行した『大阪市史史料』第 83 輯「享保期新大和川支配替関係史料」は、堺奉行による河川支配に関する職務マニュアル 2 点を翻刻・収載したものです。この 2 点の史料は、享保 3 年（1718）7 月、江戸幕府が畿内河川支配における管轄範囲を変更し、新旧大和川筋・石川筋の管轄を大坂町奉行から堺奉行に移したことに関わって作成されました。

2 点の史料のうち「川方御用目録」は、たつの市立龍野歴史文化資料館の「若狭野浅野家文書」に収められています。若狭野浅野家は、元禄赤穂事件で著名な大名赤穂浅野家の分家旗本で、寛文 11 年（1671）に成立しました。初代長恒（ながつね）は、元禄 6 年（1693）に御使番（おつかいばん）となって以降、大坂目付代、伊勢山田奉行などの職に就き、赤穂浅野本家の刃傷事件と大石良雄による吉良邸討ち入りによる 2 度の出仕停止を経て、正徳元年（1711）5 月に堺奉行に任じられました。享保 3 年 7 月 9 日に、新旧大和川筋・石川筋の管轄を大坂町奉行から堺奉行に移すことを含む、畿内河川管轄範囲の変更を命じた老中奉書を受けたのが、浅野長恒だったのです。

「川方御用目録」からは、新たに河川支配を担うことになった堺奉行（所）が、その職責を果たすために制度を整えていく様子がうかがえるのはもちろんのこと、大坂町奉行（所）による河川支配の一端を垣間見ることができます。

例えば堺川方与力が大坂川方与力に河川支配の業務について問い合わせた記述があります。問い合わせは 22 項目に及び、各々に対して大坂川方与力が付紙により回答しています。また享保 3 年 8 月に行われた、大坂町奉行の鈴木利雄と北條氏英から堺奉行の浅野への河川支配の引き継ぎは、幕府中央からの河川支配に関する指示をまたずに行われたことが見てとれます。

大坂町奉行は、貞享 4 年（1687）から享保 3 年 7 月まで、山城国宇治以下の淀川筋、同笠置以下の木津川筋、河内国亀瀬以下の大和川筋、河内国富田林以下の石川筋、そして宝永元年（1704）の大和川付け替え後に誕生した新大和川筋などを管轄していました。約 30 年もの間、摂津・河内をはるかに超えた範囲の河川支配を担った大坂町奉行（所）が培ってきた経験が想像されます。



「川役手鑑」（大阪市史編纂所蔵）より。享保 7 年 3 月に幕府代官の玉虫が出した流作場開発の触に伴う諸動向について記した部分。

もう 1 点の「川役手鑑」は、大阪市史編纂所所蔵の史料です。元々古書店で 1

点のみで出品されていたもので、来歴など多くのことがわかっておりません。しかしながら記事の内容を検討した結果、そのほとんどが浅野の後任の堺奉行水谷勝比の下でまとめられたことが判明しています。「川方御用目録」と比較してみると、記述の順番が大きく異なるものの、ほとんどが重複しています。

その中で水谷の下で新たに書き加えられたのが、享保７年３月に幕府代官の玉虫左兵衛が新大和川筋の村々に対して、流作場開発を行う旨の触を出したことに伴う、前任の浅野の動向です。流作場とは、河川などの氾濫により水害を受けやすい場所にある田地のことをいい、例えば上流から流れてきた土砂の堆積によってできた洲や島がこれに含まれます。流作場の開発を進めようとする玉虫と、川中にできた洲や島が川の流れを妨げ洪水が起きることを危惧する川筋の村々との間に立ち、浅野が事を進める様子が記録されています。

「川方御用目録」および「川役手鑑」は、享保期に幕府中央が相次いで行った河川管轄範囲の変更や流作場開発の推進に対して、堺奉行の浅野や水谷をはじめとする現場の幕府役人がいかに対応したかを示す史料と言えるでしょう。　（松本　望）

●江戸時代の桜名所をたどる

大阪の桜の名所といえば、大川沿いの毛馬桜之宮公園や造幣局の桜の通り抜けが有名ですね。現在では、川沿いに桜並木の連なる光景を目にすることがよくあります。しかし、大阪の名所を歴史的にたどってみると、桜並木の風景は江戸時代の後半まで見あたらないのです。

川崎・桜宮『淀川両岸一覧』文久元年（1861）刊行
大阪市史編纂所蔵

江戸時代の桜の名所は、延宝８年（1680）に山本洞雲が著した『難波十観』に「天王寺垂桜」という四天王寺の糸桜を詠んだ漢詩があります。その約100年後に刊行された『難波丸綱目』（安永６年版〔1777〕）には、隆専寺（生玉町）の糸桜や住吉の車返しの桜、銀山寺（生玉寺町）の彼岸桜などの名木が取り上げられています。さらに『摂津名所図会』（寛政10年〔1798〕）には、安井天神山での花見の宴が描かれるほか、月江寺（生玉寺町）や吉祥寺（六万体町）、洞岩寺（夕陽丘町）などの桜が美しいと紹介されます。また『繁花風土記』（文化11年〔1814〕）という書物には、中寺町から四天王寺周辺には「さくら一、二本ある所」は何カ所もあって限りがないほどだとしています。このように19世紀初め頃までは、寺社境内に数株の桜を植えたものは遍く見られたようですが、川沿いに桜が連なるような様子は見あたらないのです。

桜並木の名所は、19世紀中頃に至りようやく登場します。特に、浪花において花見第一の勝地と謳われたのが、桜宮と大川を挟んだ対岸の木村堤です。「水辺より馬場の堤に至るまで一円の桜にして、弥生の盛りには雲と見、雪と疑ふ光景」「川をはさみて両岸の花、爛漫として水に映じ、川風花香を送りて、四方に馥郁たり」（『浪華の賑ひ』（安政２年〔1855〕）といったように、大川の両岸に桜が咲き乱れる名所になっています。

このような風景が生まれたきっかけの一つは大塩の乱にみられます。堀留となって水の流れがな

く「ごもく山（ゴミため）」と呼ばれていた天満堀川が、乱後の天保９年（1838）に掘り広げられ、桜の名所へと変貌を遂げたのです。工事では大川沿いの国分寺村にあった樋を再興して天満堀川まで開削し、大川の水を引き入れました。そして天満堀川の堤に桜の木を植えて新しい名所を創り出したのです。再興された国分寺村の樋の口から木村堤にかけた川沿いもこれと連動するように桜の名所となりました。「大塩焼け」で東照宮や天満宮を始め、川崎から天満堀川に至る天満地域が被災したので、桜の名所誕生は大塩の乱後の地域復興策だったとも言えるでしょう。

最後に江戸時代後期の儒者・藤澤東畯（とうがい）の漢詩「遊桜祠」（桜宮に遊ぶ）を紹介します。

十里の長堤（ちょうてい）、春色（しゅんしょく）を誇る
紅々白々、流霞漲（りゅうかみなぎ）る
逍遙喰遍（しょうようぎんぺん）、情飫（あ）き難（がた）く
航（わた）り去（ゆき）て更に看る、西岸の花

流れるように続く桜の中、詩を吟じながら歩きまわるも興なお尽きず、船に乗ってさらに西岸の花を看たとあります。人びとの心を動かす大川沿いの桜。江戸時代後期から続く春の情景です。　（内海寧子）

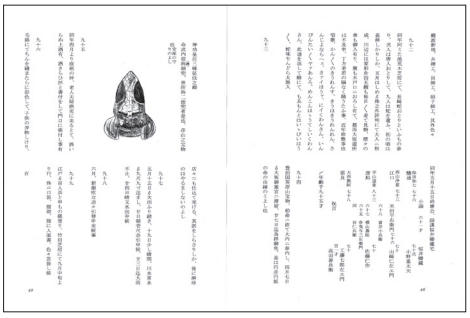
『浪華擷芳譜（なにわけっぽうふ）』安政４年（1857）刊行
大阪市立中央図書館蔵
左は金子雪操による大川沿いの風景。画面手前に見えているのが樋の口の戸前。

◆ 新刊のご案内

『大阪市史史料』第 84 輯「反古篭」

江戸時代後期の大坂の狂歌師西田負米（西田耕悦）が生前に聞き集めた市井の出来事や風聞を、編集してまとめたものです。おおむね享和３年（1803）から天保６年（1835）までの間のことが中心で、当時の世情の動きがよくわかります。

本体 1,800 円　送料 実費



『大阪の歴史』第 85 号

【主な内容】

井戸田史子「近世大坂における上荷船・茶船の浜＝机場（カセバ）の構造
－堀江地域を中心として－」
相良真理子「大阪の新聞作家渡辺霞亭－生涯と思想－」
古川　武志「『大阪経済雑誌』にみる明治期中之島風景」
上田　長生「国訴をめぐる二点の史料」

本体 700 円　送料 実費

刊行物のお求め方法

大阪市史編纂所の刊行物は大阪市史料調査会で窓口・通信販売を行っています。また、下記の書店でお求めいただけます。詳しくは大阪市史料調査会（市立中央図書館３階市史編纂所内・電話 06-6539-3333）までお問い合わせください。

取り扱い書店：ジュンク堂書店（大阪本店・難波店）、旭屋書店（天王寺ＭＩＯ店）、
紀伊國屋書店（梅田本店）※『大阪の歴史』のみ取扱い

絵はがきでみる昔の大阪（26）
市庁舎（大正時代末から昭和初年）

現在の大阪市役所は、4代目になります。最初の市庁舎は、明治32年（1899）に西区江之子島にあった大阪府の庁舎の北側に木造2階建ての仮庁舎として建てられました。手狭であったためか、明治45年（1912）に堂島浜通に移転しましたが、この2代目の建物も2階建ての木造建築で仮庁舎とされました。初代と2代目の市役所は木造の仮庁舎だったわけです。本格的な庁舎建設は先送りされていたのです。

待望されていた本格的な市役所庁舎が建設されたのは、大正10年（1921）5月のことです。中之島の現在地に、ネオルネサンス式、鉄筋コンクリート5階建で、写真に見るように塔屋を備えていました。56メートルほどの高さがあり、気品のある優美な建築として市民に愛されました。近くには、明治36年（1903）建築の日本銀行大阪支店、明治37年建築の大阪図書館（現大阪府立中之島図書館）、大正7年（1918）建築の大阪市中央公会堂とならび中之島の建築群を構成していました。しかし昭和57年(1982)に解体作業が始まり、2期に分けて新庁舎が建設されました。第2期の完成は昭和61年（1986）です。地上9階建てで、屋上階と地下が4階あります。

さて、写真に写っている橋は大江橋ですが、鉄橋なので、昭和10年（1935）に鉄筋コンクリート製に架け替えられる以前のものです。大正10年から昭和10年までの間に写されたことになります。写真には乗り合いバス・市電・自動車・自転車なども見えます。北から南東方向を望んでいますが、それほど高いビルもなく、落ち着いたたたずまいがうかがえます。

（堀田暁生）

The Meisho Osaka　　舎　廳　市　　（所名阪大）

★大阪市史編纂所では、ホームページを開設し市域の歴史に関する情報を発信しています。
http://www.oml.city.osaka.lg.jp/?page_id=871　または「大阪市史」で検索してください。
今日、大阪でどんな出来事があったかを知る「今日は何の日」、催し物や刊行物を紹介する「おしらせ」、「みんなの質問」では、全国の図書館に寄せられた「おおさか」に関する質問と回答を掲載しています。
また、この「編纂所だより」のカラー版の閲覧とダウンロードも、上記ホームページより可能です。

「編纂所だより」は3月と9月の年2回発行し、大阪市立各図書館のほか、各区役所、各区民センター、市役所市民情報プラザ、総合生涯学習センター及び各市民学習センター、大阪歴史博物館、大阪城天守閣、住まいのミュージアムなどに置いています（数に限りがあります）。大阪市立中央図書館（3階大阪コーナー）及び各区の図書館では最新号を常備していますので、カウンターでおたずねください。
（平成29年3月発行）